

## 6. 医学薬学研究部

I	医学薬学研究部の研究目的と特徴	6-2
II	「研究の水準」の分析・判定	6-5
	分析項目 I 研究活動の状況	6-5
	分析項目 II 研究成果の状況	6-10
III	「質の向上度」の分析	6-19

## I 医学薬学研究部の研究目的と特徴

### 1. 研究部構成

医学薬学研究部は3学域・9学系と医療基礎から構成されている。

(1) 医学薬学研究部	先端生命医療学域	認知・情動脳科学系 分子病態医学系 展開ゲノム薬学系	
	環境・生命システム学域	環境生体防御医学系 生命システム医学系 生命分子薬学系	
	東西統合医療学域	東西統合医学系 臨床薬科学系 看護学系	
	医療基礎		
(2) 教員の構成 234名 (平成27年5月1日)			
教授 66名 准教授 56名 講師 5名 助教 104名 助手 3名			
このほか、特命教員 11名、寄附講座教員 13名が研究に従事している。			
(3) 任期制の適応対象			
部局等	対象となる職	任期	再任の可否
大学院医学薬学研究部 (医学) (医療基礎担当教員を除く。)	教授	10年	可
	准教授, 講師, 助教	7年	
	助手	5年	
大学院医学薬学研究部 (薬学) (医療基礎担当教員を除く。)	教授, 准教授, 講師	10年	可
	助教	7年	
大学院医学薬学研究部 (医学及び薬学の医療基礎担当教員)	教授, 准教授, 講師, 助教	10年	可

出典：「国立大学法人富山大学教育職員の任期に関する規則」より

### 2. 研究目的

富山大学は、大学の基本的な目標として表Aのような基本理念を掲げている。

表A 富山大学の理念

<p>富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与する。</p> <p>(出典：富山大学概要)</p>
---

医学薬学研究部は、東洋・伝統医薬学の研究と近代医学を取り入れた基礎から臨床の研究を基盤とし、さらに広い分野における研究を推進していくため、先端生命医療学域においては、生命体のホメオスターシスとその破綻としての疾患につき、分子レベルから固体レベルに至る基礎的研究を推進すること、環境・生命システム学域においては、生命システムを薬物や環境との関わりから捉え、創薬、治療技術、予防科学に至るまでの基礎・応用研究を行うこと、東西統合医療学域においては、個の医療という観点を共通軸に、東西融合医薬学、オーダーメイド医療、個人レベルでの先端ケアのそれぞれ異なる切り口からアプローチすることを、また主として教養教育を担う教員が所属する医療基礎においては、人文・社会科学ならびに自然科学の幅広い研究を行うことを、それぞれ基本方針としている。

### 3. 沿革と特徴

明治26年に共立富山薬学校が創立され、その伝統を引き継いだ富山大学薬学部、新設の医学部が加わり、医学、薬学の一体化と西洋医薬学・和漢医薬学の融合という設立理念の下、昭和50年10月1日に富山医科薬科大学が誕生した。平成17年10月に、富山医科薬科大学、富山大学、高岡短期大学が富山大学に統合された。さらに、平成18年4月には大学間の統合に伴い大学院も新たに改組され、現在の医学薬学研究部が設置され、研究体制が一新された。平成26年度には、新研究棟として「東西医薬学の融合」を理念に医学・薬学・和漢が連携し、グローバルなレジリエンスサイエンスの推進を図ることを目的とした「医薬イノベーションセンター」を設置しており、産学連携の推進、新薬等の開発、基礎研究・臨床研究等の拠点として、国際的先端的研究が推進されている。また、同センターに多目的ホール「日医工オーデトリウム」を設置し、医学部・薬学部の学生が一堂に会して行う授業や、学術集会及び演奏会等にも有効活用できる設備を充実させた。平成27年度には、研究戦略体制を充実させるため、全学的な見直しによる組織改編を行い、「研究推進機構」が発足し、研究戦略室や研究推進総合支援センターの更なる充実により、医学薬学研究部の研究活動の更なる向上が図られている。

医学薬学研究部では上記基本方針を実現させるために、研究の高度化・先端化を図るとともに、社会との連携と貢献を目指して研究を展開している。

### 4. 想定される関係者と寄せられる期待

#### 1) 学術研究団体

研究部教員は、国内外の学会や国際学術雑誌で論文を発表し、医学薬学領域の発展に貢献している。学術研究団体からは、先端的生命科学研究を基盤に医薬学領域の新たな研究を展開するとともに、伝統医薬学を併せ、医療に貢献することが期待されている。

2) 産業界

産業界からは創薬シーズ・新規医薬品の開発とともに新規製剤化に関する研究の進展が期待されている。

3) 海外研究機関

複数の研究機関と多彩な国際共同研究プロジェクトを展開しており、これらの研究機関からは、生命科学の進展、疾病の分子病態の解明、新薬開発の基盤研究の進展への貢献が期待されている。

4) 地域医療関係

富山県厚生部、病院、薬局などの医療関係者からは、本研究部の研究成果が地域の健康・保健・衛生の向上に貢献することが期待されている。

5) 研究不正防止への対応

研究活動における不正行為の防止対策について、医学部・薬学部教員全員を対象とした研究倫理教育として、CITI Japan プロジェクトによる e-learning の受講を義務付けている。

また、「富山大学役職員のためのコンプライアンスの手引き」は、教職員へ教授会等において周知徹底を図っている。

## II 「研究の水準」の分析・判定

## 分析項目 I 研究活動の状況

## 観点 研究活動の状況

(観点に係る状況)

医学薬学研究部所属教員が、第2期中期目標期間中(平成22年4月～平成28年3月)に論文・著書等や学会等で発表した年度別の研究業績数を示す(資料1-1-1)。医学薬学研究部所属教員は、第2期中期目標期間中に原著論文を総数で3,231報発表している。これは、一人当たり当該期間中に約13.8報、年間平均2.2報の原著論文を発表していることを示している。さらに、IF $\geq$ 5のハイインパクト雑誌(原著論文誌おおよそ上位5%以内)にも当該期間中に254報(内症例報告で5報)が掲載されており、一人当たり1報以上発表していることになり、質の高い研究成果を多数発信している。国際学会と国内学会でも、それぞれ一人当たり年間平均1.5回と7.2回発表している。第1期中期目標期間中との比較では、一人当たり年間平均の著書、総説、原著論文、学会報告全てにおいてほぼ同じ報数で、高い水準を維持している。

資料1-1-1 医学薬学研究部年度別研究業績数

	著書		総説		原著論文		学会報告		症例報告 (医学)	
	英文	和文	英文	和文	英文	和文	国際	国内	英文	和文
平成22年度	1	163	19	193	380	131	404	1,790	22	56
平成23年度	14	126	18	226	382	97	375	1,627	33	66
平成24年度	10	130	20	193	449	142	397	1,802	59	69
平成25年度	14	139	29	152	448	98	347	1,823	49	59
平成26年度	10	117	29	169	448	134	346	1,624	63	50
平成27年度	10	134	14	158	417	105	297	1,695	50	51

(出典：医学薬学研究部調査統計資料)

このほかにも、国際共同研究・国際交流を促進するための取組として、国際会議や国際シンポジウムの開催、学術国際交流及び外国人研究者の招聘等によるセミナーを積極的に行っている(資料1-1-2)。

資料 1-1-2 医学薬学研究部国際シンポジウム等年度別開催状況

	国際会議・国際シンポジウム等の開催件数	外国人研究者によるセミナー等の開催件数
平成 22 年度	5	4
平成 23 年度	9	13
平成 24 年度	6	10
平成 25 年度	6	18
平成 26 年度	7	14
平成 27 年度	12	8

(出典：医学薬学研究部調査統計資料)

医学薬学研究部所属教員が代表者として申請した、年度別科学研究費補助金の獲得状況を示す(資料 1-1-3)。一人当たりの年平均申請数は 1.07~1.15 件で、全員が積極的に科学研究費補助金の獲得を目指している。一人当たりの年平均採択金額は約 109 万円、採択率は毎年ほぼ 50%であり、第 1 期と比較して申請率はほぼ同じ水準、採択率は大幅に向上している。

その他の外部資金についても積極的に応募している(資料 1-1-4)。第 1 期と比較して共同研究、受託研究、寄附金ともに大幅に獲得額が向上しており、科学研究費補助金と合わせると、一人当たりの平均で年間 500 万円程度の外部資金を獲得している。高額な外部資金としては、内閣府の「最先端・次世代研究開発支援プログラム」に 1 名、科学技術振興機構の「戦略的創造研究推進事業のチーム型研究」に 2 名が採択されている。

また寄附講座として、免疫バイオ・創薬探索研究講座(平成 19~30 年度)、神経・整復学講座(平成 21~30 年度)、地域医療支援学講座(平成 22~27 年度)高度専門看護教育講座(平成 22~28 年度)、在宅看護学講座(平成 23~28 年度)、富山プライマリ・ケア講座(平成 25~28 年度)、地域先進医療学講座(平成 27~29 年度)、製剤設計学講座(平成 27~31 年度)を受け入れた。

さらに医学薬学研究部所属教員は、多くの国内特許ならびに PCT の出願を行っている(資料 1-1-5)。

資料 1-1-3 医学薬学研究部年度別科学研究費補助金申請と採択状況

	教員数	申請件数	申請率 (%)	一人当たりの申請件数	採択件数	採択率 (%)	一人当たりの採択件数	採択金額 (千円)	採択金額 (千円) 一人当たりの
平成 22 年度	245	263	107	1.07	129	49	0.53	226,770	926
平成 23 年度	235	270	115	1.15	129	48	0.55	241,160	1,026
平成 24 年度	240	257	107	1.07	130	51	0.54	270,000	1,125
平成 25 年度	246	271	110	1.1	139	51	0.57	290,800	1,182
平成 26 年度	242	279	115	1.15	141	51	0.58	273,900	1,132
平成 27 年度	234	265	113	1.13	142	54	0.61	268,700	1,148

(出典：本学研究協力課調査統計資料)

資料 1-1-4 医学薬学研究部年度別外部資金獲得状況 (科研費以外)

	教員数	共同研究		受託研究		寄附金		合計金額 (千円)	1人当たりの金額 (千円)
		件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)		
平成 22 年度	245	52	42,079	42	370,356	493	462,324	874,759	3,570
平成 23 年度	235	51	41,007	41	412,261	496	534,684	987,952	4,204
平成 24 年度	240	53	48,931	43	464,391	514	540,639	1,053,961	4,392
平成 25 年度	246	44	37,836	53	316,384	480	510,505	864,725	3,515
平成 26 年度	242	53	49,525	63	305,441	499	480,661	835,627	3,453
平成 27 年度	234	67	44,786	81	320,292	549	630,899	995,977	4,256

(出典：本学研究協力課調査統計資料)

資料 1-1-5 医学薬学研究部所属教員の特許出願数

年度	種別コンボ	代表発明者	発明の名称	出願日
平成 22 年度 (国内 10 件)	特許	恒枝 宏史	血管内皮細胞における細胞接着因子の発現抑制剤	2010/4/14
	特許	新田 淳美	精神障害の診断方法および診断薬キット	2010/6/9
	特許	長井 良憲	リガンド探索用細胞、リガンド探索方法、抗肥満薬または抗メタボリックシンドローム薬探索用細胞	2010/6/29
	特許	塚田 一博	胃がんの補助化学療法感受性判定用組成物又はキット	2010/7/6
	特許	川口 善治	椎弓根スクリュー用挿入穴作製ワイヤーの三次元ガイド具	2010/8/12
	特許	矢倉 隆之	有機ハイブリッド型触媒	2010/11/4
	特許	清水 忠道	機能性シート及びその製造法	2011/1/14
	特許	岸 裕幸	マイクロウェルアレイチップおよび細胞の回収方法	2011/1/27
	特許	安東 嗣修	神経線維保護組成物、これを用いた刺激性物質の評価方法及び評価システム	2011/3/25
特許	岸 裕幸	外来遺伝子導入用ベクター及び外来遺伝子が導入されたベクターの製造方法	2011/3/30	

富山大学医学薬学研究部 分析項目 I

平成 23 年度 (国内 14 件, 外国 7 件)	特許	新田 淳美	精神障害の診断方法および診断薬キット	2011/6/6
	特許	笹岡 利安	新規なN-(ピリジン-2-イル)フェニルアルカンアミド誘導体およびそれらを含有する SHIP2 阻害剤	2011/6/9
	特許	将積日出夫	フレンツェル眼鏡用眼振撮影装置	2011/7/7
	特許	岸 裕幸	血液中の浮遊癌細胞を補足できるマイクロチップ	2011/7/28
	PCT 特許	川口 善治	椎弓根スクリュー用挿入穴作製ワイヤーの三次元ガイド具	2011/8/5
	PCT 各国特許 (日本を除く)	川口 善治	椎弓根スクリュー用挿入穴作製ワイヤーの三次元ガイド具	2011/8/5
	特許	安東 嗣修	動物を用いた痺れ又は自発痛の評価方法	2011/8/10
	特許	岸 裕幸	マイクロウェルアレイチップおよび細胞の回収方法	2011/10/3
	PCT 特許	矢倉 隆之	有機ハイブリッド型触媒	2011/11/1
	PCT 特許	岸 裕幸	マイクロウェルアレイチップおよび細胞の回収方法	2011/11/22
	特許	二階堂敏雄	羊膜間葉系幹細胞の調整方法および単離された羊膜間葉系幹細胞集団	2011/11/25
	特許	笹岡 利安	新規なN-(ピリジン-2-イル)フェニルアルカンアミド誘導体およびそれらを含有する SHIP2 阻害剤	2011/12/6
	特許	森 寿	フェノキシ- (N-置換カルバモイルメチル) -アセトアミド誘導体およびセリンラセマーゼ阻害剤	2012/1/27
	PCT 各国特許 (日本を除く)	森 寿	セリンラセマーゼ阻害剤	2012/1/27
	特許	森 寿	N-(置換) - (N-置換スルファモイルアミノ) -アセトアミド誘導体およびそれを有効成分とするセリンラセマーゼ阻害剤	2012/2/23
	特許	将積日出夫	フレンツェル眼鏡用眼振撮影装置	2012/3/3
	特許	森 寿	N-[ (アシル) -ヒドラジノカルボチオニル] -アセトアミド誘導体およびそれを有効成分とするセリンラセマーゼ阻害剤	2012/3/3
	特許	岸 裕幸	T 細胞の刺激方法およびその利用	2012/3/7
	特許	時光 善温	血管内注入監視装置及びそれを用いた血管内注入監視システム	2012/3/26
	PCT 各国特許 (日本を除く)	岸 裕幸	Vector for foreign gene introduction, and method for producing vector in which foreign gene has been introduced	2012/3/27
PCT 特許	岸 裕幸	外来遺伝子導入用ベクター及び外来遺伝子が導入されたベクターの製造方法	2012/3/27	
平成 24 年度 (国内 13 件, 外国 9 件)	特許	二階堂敏雄	ハイブリッドスキヤホールドおよびそれを用いた生体組織再生方法	2012/6/1
	PCT 特許	笹岡 利安	新規なN-(ピリジン-2-イル)フェニルアルカンアミド誘導体およびそれらを含有する SHIP2 阻害剤	2012/6/7
	特許	森 寿	ベンゼンスルホニルアミド誘導体およびそれを有効成分とするセリンラセマーゼ阻害剤	2012/6/15
	特許	大黒 徹	サイトメガロウイルスの薬剤耐性変異の検出方法および薬剤耐性変異遺伝子の同定方法	2012/7/20
	特許	岸 裕幸	T細胞受容体のクローニング方法	2012/7/25
	特許	市田 蓆子	炎症性動脈瘤の診断方法	2012/7/30
	PCT 特許	安東 嗣修	動物を用いた痺れ又は自発痛の評価方法	2012/8/10
	特許	安東 嗣修	胆汁うっ滞性障害のモデル動物およびその作製方法	2012/8/16
	特許	岸 裕幸	抗原特異的ウサギ抗体産生細胞の迅速な特定方法およびその利用	2012/10/4
	外国特許	安東 嗣修	動物を用いた痺れ又は自発痛の評価方法	2012/10/4
	特許	高津 聖志	インフラマソーム活性抑制剤	2012/11/9
	PCT 特許	二階堂敏雄	羊膜間葉系幹細胞の調整方法および単離された羊膜間葉系幹細胞集団	2012/11/22
	特許	友廣 岳則	蛍光性質量標識プローブ	2013/1/17
	PCT 各国特許 (日本を除く)	森 寿	セリンラセマーゼ阻害剤	2013/1/24
	PCT 特許	森 寿	セリンラセマーゼ阻害剤	2013/1/24
	特許	岸 裕幸	T細胞受容体の抗原の同定法および同定用レポーター細胞	2013/2/8
	特許	新田 淳美	精神障害の検査方法および検査キット	2013/2/19
	特許	岸 裕幸	抗シトルリン化タンパクヒト I g G抗体およびその用途	2013/2/27
	特許	二階堂敏雄	羊膜幹細胞の選択的増幅方法	2013/2/28
	PCT 各国特許	岸 裕幸	Method for Stimulating T Cell and Use Thereof	2013/3/6

富山大学医学薬学研究部 分析項目 I

	(日本を除く)			
	PCT 特許	岸 裕幸	T 細胞の刺激方法およびその利用	2013/3/6
	PCT 特許	時光 善温	血管内注入監視装置及びそれを用いた血管内注入監視システム	2013/3/25
平成 25 年度 (国内 12 件, 外国 8 件)	特許	畑中 保丸	スルホニルアジド誘導体およびスルホニルアミド誘導体の製造方法並びにそれらの利用	2013/4/22
	特許	岡部 素典	バイオコンジュゲートデバイス	2013/6/28
	PCT 特許	大黒 徹	サイトメガロウイルスの薬剤耐性変異の検出方法および薬剤耐性変異遺伝子の同定方法	2013/7/19
	PCT 各国特許 (日本を除く)	岸 裕幸	Method for cloning T cell receptor	2013/7/24
	PCT 特許	岸 裕幸	T 細胞受容体のクローニング方法	2013/7/24
	特許	笹岡 利安	(ベンゼンスルホニルアミノ) ベンズアミド誘導体およびそれらを有効成分とする SHIP2 阻害剤	2013/8/2
	特許	生谷 尚士	ヒト肺高血圧症に類似した病態を示すモデル動物及びその作成方法	2013/9/5
	特許	安東 嗣修	レーザドップラー流速測定方法及び装置	2013/9/19
	外国特許	安東 嗣修	レーザドップラー流速測定方法及び装置	2013/9/19
	PCT 特許	安東 嗣修	レーザドップラー流速測定方法及び装置	2013/9/19
	特許	高津 聖志	トール様受容体 4 活性化作用を有するフニコロシン誘導体及びその用途	2013/9/30
	特許	畑中 保丸	2-デオキシ-2, 3-ジデヒドロシアル酸誘導体およびその製造法	2013/11/15
	特許	高津 聖志	IL-1 及び TNF 活性阻害剤	2013/12/27
	特許	小林 栄治	抗原特異的 T 細胞受容体の取得方法	2014/1/20
	PCT 特許	岸 裕幸	T 細胞受容体の抗原の同定法および同定用レポーター細胞	2014/2/7
	特許	安東 嗣修	末梢神経障害誘発感覚異常を改善する外用剤	2014/2/19
	PCT 特許	新田 淳美	精神障害の検査方法および検査キット	2014/2/19
	特許	矢倉 隆之	磁性鉄粒子担持ヨウ素触媒	2014/2/24
PCT 特許	二階堂敏雄	羊膜幹細胞の選択的増幅方法	2014/2/25	
特許	矢倉 隆之	ヨードベンズアミド型アルコール酸化触媒	2014/3/12	
平成 26 年度 (国内 10 件, 外国 4 件)	特許	小林 栄治	TCR の細胞傷害活性誘導能を評価するための NK 細胞株, およびその作製方法	2014/5/29
	特許	浜名 洋	TCR cDNA の増幅方法	2014/5/30
	特許	岡部 素典	バイオコンジュゲートデバイス	2014/6/30
	特許	安東 嗣修	末梢神経の脱髄抑制剤	2014/7/10
	特許	安東 嗣修	末梢神経障害誘発感覚異常の改善剤	2014/8/27
	特許 (5 件)		出願公開前のため非表示	
PCT 特許 (4 件)		出願公開前のため非表示		
平成 27 年度 (国内 6 件, 外国 2 件)	特許 (6 件)		出願公開前のため非表示	
	PCT 特許 (2 件)		出願公開前のため非表示	

(出典：本学研究協力課調査統計資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

第 1 期中期目標期間中との比較では、一人当たり年間平均の著書、総説、原著論文、学会報告全てにおいてほぼ同じ報数で、高い水準を維持している。科学研究費補助金は、第 1 期と比較して申請率はほぼ同じ水準、採択率は大幅に向上している。共同研究、受託研究、寄附金に関しては大幅に獲得額が向上している。また、寄附講座も多数受け入れている。

以上より、研究活動は第 1 期中期目標期間中と比してもより活発に行われており、関連諸学会および社会から期待される水準を維持している、もしくは向上していると判断する。

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

## 観点 研究成果の状況

(観点に係る状況)

## ①研究の高度化・先端化を図る研究

医学薬学研究部では、研究の基本方針に沿い、以下のような優れた研究業績があがっている(医学薬学研究部等を代表する研究業績説明書参照)。

## ・医学領域

先端生命医療学域の認知・情動脳科学系では、ダイオキシンの中でも毒性の高いTCDDに暴露された乳幼児では自閉症傾向を示すことを明らかにした(業績番号3)。また、シナプス形成の鍵分子の一つであるPTP $\delta$ と相互作用するIL1RAPL1/IL-1RAcPとの分子立体構造を解明し、PTP $\delta$ のミニエクソンペプチド配列が相互作用の調節に関わることを初めて示した(業績番号8)。

先端生命医療学域の分子病態医学系では、マウスを用い、2つの古い記憶を人為的に活動させて、独立した記憶を作り出すことに成功した。PTSDをはじめとする精神疾患の治療法創出に繋がる成果である(業績番号9)。

環境・生命システム学域の環境生体防御医学系では、川崎病の大規模多施設共同研究に参加し、川崎病の病因・病態解明を行った。本論文をもとに川崎病治療ガイドラインが改訂され医療の進歩に大きく貢献した(業績番号35)。また、プライマリーT細胞より抗原特異的TCRを高効率・確実に作製する新規手法を開発し国内外の共同研究を進めた(業績番号25)。

環境・生命システム学域の生命システム医学系では、長寿遺伝子SIRT1が分泌型eNAMPTの発現を調節して全身の糖代謝を改善することを明らかにした(業績番号33)。また、神経細胞の多様性を制御するメチル化機構を世界で初めて明らかにした(業績番号10)。

東西統合医療学域の東西統合医学系では、ホタルイカ生食による旋尾線虫幼虫移行症例を報告し、ホタルイカ生食の危険性を国際的に発信した(業績番号37)。また、食品や化粧品等に含まれるナノマテリアルのサイズにより、胎盤通過が異なり生殖毒性をきたすこと、さらにこれら生殖毒性を消失させるナノマテリアルの化学的修飾法を示した(業績番号43)。

## ・看護学領域

東西統合医療学域の看護学系では、非侵襲的かつ簡便に低栄養の判別ができる在宅栄養スクリーニング表を作成し、日本褥瘡学会で大塚賞を受賞した。また、茶カテキンの抗菌作用に関する研究では、国際学会において招待講演を行った(業績番号44)。

・薬学領域

化学・物理系薬学分野では、創薬を指向したケミカルバイオロジーに関して、特に質の高い研究成果が上がっている。例えば、プロテオームから直接 MS 解析で同定可能な分子システムの開発（業績番号 2）、新奇なバイオプローブ用色素としての円偏光発光分子の開発（業績番号 5）、タンパクの簡略体としての短鎖らせん性ペプチドの開発（業績番号 6）などが挙げられる。また薬候補分子の新規合成法の開拓に関しては、水中での生体直交型 *in situ* 修飾法の開発（業績番号 7）、三成分集約型の触媒的連続環化反応の開発（業績番号 13）、環境負荷が少なくハイブリッド型有機酸化触媒の創出（業績番号 14）、*in silico* スクリーニングを活用した次世代型の食後過血糖改善剤の創製（業績番号 19）などが挙げられる。

生物系薬学分野では、創薬ターゲットの同定や高次脳機能発現の分子機構の解明で、特に質の高い研究成果が上がっている。例えば、精神遅滞原因タンパク質とスプライシング因子の複合体構造の決定（業績番号 15）、チロシンキナーゼ型受容体のリン酸化機構の解明と肺がん患者予後との相関（業績番号 16）、ペルオキシソーム脂肪酸β酸化系酵素の基質認識部位の特定と反応機構の解明（業績番号 17）、脳由来神経栄養因子の遺伝子発現に関わる細胞内機構の発見（業績番号 18）などが挙げられる。

薬剤・薬理系薬学分野では、具体的な疾患に焦点を当てた病態の解明で、特に質の高い研究成果が上がっている。例えばモデルマウスを利用した覚醒剤依存症に対する新たな治療標的の探索（業績番号 12）、帯状疱疹痛モデルマウスのガレクチン 3 の発現増加と帯状疱疹痛の関係解明（業績番号 27）、オレキシンの日周性作用と 2 型糖尿病のインスリン抵抗性の防止の関係解明（業績番号 34）などが挙げられる。

②社会との連携と社会への貢献

・国際社会への発信

医学薬学研究部所属教員は第 2 期中期目標期間中に、以下に示す 121 件の国際共同研究を海外の大学や研究機関等と行っている。

資料 2 - 1 - 1 医学薬学研究部年度別国際共同研究実施状況

	国際共同研究実施件数
平成 22 年度	26 件
平成 23 年度	18 件
平成 24 年度	16 件
平成 25 年度	24 件
平成 26 年度	17 件
平成 27 年度	20 件

(出典：医学薬学研究部調査統計資料)

## 富山大学医学薬学研究部 分析項目Ⅱ

・国内・地域社会への発信

また国内・地域社会へも研究成果などを積極的に発信している（資料2-1-2）。

資料2-1-2 医学薬研究部関係プレスリリース

	タイトル	リリース日	報道機関名
平成 22 年度	平成22年度からはじまる「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」のユニットセンターに富山大学が選定	4月9日	富山新聞
	富山大学薬学部附属薬用植物園春季一般公開を開催	5月12日	北陸中日新聞、富山新聞
	市民公開講演会「生涯健康脳の作り方」の開催—富山大学大学院生命融合科学教育部主催—(6/5)	5月24日	富山新聞
	富山大学大学院医学薬学研究部（医学）薄井 勲 助教が日本糖尿病学会 学会賞「リリー賞」を受賞	5月25日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞
	富山大学大学院医学薬学研究部（医学）放射線基礎医学講座 近藤 隆 教授が日本超音波医学会第9回松尾賞および第24回菊池賞を同時受賞	5月26日	富山新聞、読売新聞
	富山大学大学院医学薬学研究部（医学）近藤隆教授の研究室が日本超音波医学会第83回学術大会でトリプル受賞	6月2日	北日本新聞、富山新聞
	カンワル・エヘメドさん（富山大学大学院医学薬学研究部外国人客員研究員）が国際高治療増感研究協会（IASCT）第11回国際研究奨励賞を受賞	6月9日	富山新聞
	「富山大学医学部看護学科研究棟新営工事安全祈願祭」の開催	6月28日	北日本新聞、富山新聞
	地域医療支援学講座有嶋拓郎客員教授が富山第一高等学校で授業(7/9) 出前授業「江戸時代の救急医療」	7月8日	富山新聞、朝日新聞
	富山大学薬学部新棟完成記念式典の開催について	7月28日	北日本新聞、富山新聞、朝日新聞
	富山大学大学院医学薬学研究部（医学）生化学講座 井ノ口 馨 教授が第12回時實利彦記念賞を受賞（9/2）	8月25日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞
	富山大学薬学部附属薬用植物園秋季一般公開を開催	8月30日	北日本新聞、富山新聞、読売新聞
	富山大学大学院医学や薬学研究部（医学）放射線基礎医学講座 趙 慶利 助教が第5回アジアハイパーサーミア腫瘍学会で優秀ポスター賞受賞	9月22日	北日本新聞
	第1回「高度専門看護教育講座 公開フォーラム」を開催(10/2)	10月1日	富山新聞
	富山大学エコチルユニットセンターのホームページ開設及びマスコットキャラクターの決定（「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の広報・啓発活動）	10月4日	富山新聞
	富山大学 白木公康教授の帯状疱疹に関する研究が海外で注目される—韓国の教養番組にテレビ出演—	10月12日	富山新聞、北陸中日新聞
	「富山大学医学部慰霊祭」の開催について	10月13日	北日本新聞、富山新聞
	富山大学でエコチル富山ユニットセンターの看板上掲式を開催（11/1）	10月27日	北日本新聞、富山新聞、読売新聞、北陸中日新聞
	富山大学地域医療支援学講座が高岡高校・福岡高校・砺波高校で「出前授業」を実施	12月6日	北日本新聞、富山新聞
	消化管の動きを調整する分子センサーの働きを解明—過敏性腸症候群などの原因解明と治療に期待—	12月8日	北日本新聞、富山新聞、読売新聞
富山大学薬学部附属薬用植物園春季一般公開を開催	5月23日	毎日新聞	
新生児への膜型人工肺（ECMO）治療の実施報告について	6月10日	北日本新聞、富山新聞、朝日新聞、北陸中日新聞	
最先端技術を搭載した3T型MRI装置を県内初の導入	6月20日	毎日新聞	
マリyam・アリ・ハッサン（Mariame Ali Hassan）さん（富山大学大学院医学薬学研究部外国人客員研究員）が国際高治療増感研究協会（IASCT）第12回国際研究奨励賞を受賞	7月6日	富山新聞、北陸中日新聞	
皮膚科学講座清水忠道教授が第5回加齢皮膚医学会研究基金：ロート賞を受賞	7月6日	富山新聞、北陸中日新聞	
遅発性アデノシンデアミナーゼ（ADA）欠損症の診断と治療の実施報告について	7月7日	北日本新聞、富山新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、北陸中日新聞	
富山大学大学院医学薬学研究部の教員2名が日本光医学・光生物学会学術奨励賞を受賞	7月28日	北日本新聞	
富山大学薬学部附属薬用植物園秋季一般公開を開催	8月30日	富山新聞	
「富山大学医学部慰霊祭」の開催について	10月11日	北日本新聞、富山新聞	
富山大学における定位・機能神経外科手術について	10月27日	北日本新聞	

## 富山大学医学薬学研究部 分析項目Ⅱ

平成 24 年度	富山大学薬学部附属薬用植物園春季一般公開を開催	5月28日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、朝日新聞
	富山大学附属病院における脳死臓器提供 記者会見について(6/15)	6月14日・15日	北日本新聞、富山新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、北陸中日新聞
	富山大学薬学部附属薬用植物園秋季一般公開を開催	8月27日	北日本新聞、富山新聞
	富山大学大学院医学薬学研究部(医学)放射線基礎医学講座 近藤隆教授が第11回国際ハオパーサーミア腫瘍学会(ICH)でアジアハイパーサーミア腫瘍学会賞を受賞	9月11日	北日本新聞、富山新聞
	未来の薬剤師大集合!!! (小学生低学年編、小学生中学年編、小学生高学年編、中学生編)	10月17日	富山新聞、北陸中日新聞、朝日新聞
	「富山大学医学部慰霊祭」の開催について(10/19)	10月18日	北日本新聞、富山新聞
	「スイス・バーゼルとの創薬・製薬交流促進シンポジウム」	3月1日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞
平成 25 年度	富山大学附属病院総合臨床教育センター完成記念式の開催について(4/5)	4月1日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞
	富山大学 井ノ口馨教授が文部科学大臣表彰を受賞(4/16)		北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、朝日新聞
	富山大学薬学部附属薬用植物園春季一般公開を開催	5月27日	
	文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」に採択	8月9日	北日本新聞
	富山大学薬学部附属薬用植物園秋季一般公開を開催	8月26日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞
	がん患者の血液から、がん抗原特異的キラーT細胞のTCR遺伝子を10日間で取得する画期的なシステム(hTEC10)を開発	10月11日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、朝日新聞
	「富山大学医学部慰霊祭」の開催について(10/18)	10月16日	北日本新聞、富山新聞
	体験型学習「未来の薬剤師大集合!!!」	10月22日	富山新聞
	富山大学双六診療所が人名救助で表彰(11/14)	11月14日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞
	薬学会賞を受賞(畑中保丸 理事・副学長)	11月29日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞
	文部科学省「大学における医療人養成推進等委託事業」に本学提案事業が採択	12月26日	富山新聞
	2013年度食創会安藤百福賞大賞が決定 「食べ物好き嫌いの学習・記憶と感覚認知の神経機構に関する研究」	12月27日	北日本新聞、富山新聞
	とやま総合診療イノベーションセンター開所式のお知らせ(3/4)	2月27日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞
	世界初ダイオキシンの小児の自閉症傾向を増強することがベトナムにおける脳と疫学研究により明らかに	3月12日	富山新聞、北陸中日新聞
平成 26 年度	フルーラジカル国際会議で、富山大学院生(医学薬学教育部(医学))が夫婦で優秀発表賞を同時受賞	4月1日	北日本新聞、富山新聞
	PQBP1遺伝子変異が関与する知的障害の原因を解明	4月28日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞
	富山大学薬学部附属薬用植物園春季一般公開を開催	5月26日	北日本新聞、朝日新聞
	富山大学薬学部創立120周年記念式典・記念講演会	5月27日	北日本新聞、富山新聞
	「富山大学医学部慰霊祭」の開催について	7月28日	富山新聞
	富山大学薬学部附属薬用植物園秋季一般公開を開催	8月20日	富山新聞、毎日新聞
	特命助教 吉久陽子さんが第39回東海皮膚科漢方研究会「安江賞」を受賞	9月10日	富山新聞、北日本新聞
	体内リズムが糖尿病を防ぐ機構解明	9月16日	北日本新聞、富山新聞、北陸朝日新聞
	医学部放射線基礎医学講座 近藤教授 日本放射線影響学会 学会賞受賞	10月7日	富山新聞、北日本新聞
	レアアースを必要としない高効率な円偏光発光物質の開発に成功	10月31日	富山新聞、北日本新聞
	大学院医学薬学教育部看護学専攻(博士課程)の設置について	11月6日	北日本新聞、富山新聞
	海外からの小児患者受け入れ及び手術経過報告について	11月7日	富山新聞、毎日新聞、北陸中日新聞、朝日新聞、北日本新聞、読売新聞
	薬の作用タンパク質を特定する最先端の光技術開発に成功	11月11日	北日本新聞、富山新聞

富山大学医学薬学研究部 分析項目Ⅱ

	血小板由来増殖因子の作用機序と生体での役割についての研究	11月28日	北日本新聞、富山新聞
	寄附講座「製剤設計学講座」を設置	12月18日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞
	脳血管内皮細胞由来E-EVsがペリサイトとの細胞間コミュニケーションツールであることを発見	2月13日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞
	異なる古い記憶を人為的に組み合わせ、新しい記憶を作り出すことに成功 (富山大学大学院医学薬学研究部 井ノ口馨 教授)	3月31日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、日本経済新聞、北海道新聞、茨城新聞、上尾新聞、東京新聞、静岡新聞、日本海新聞、西日本新聞、港北新聞、山陰中央新聞、福井新聞、高知新聞、秋田魁新報社、沖縄タイムス
平成 27 年度	神経細胞における遺伝子発現制御の仕組みを解明	4月7日	北陸中日新聞、富山新聞、北日本新聞
	自閉症などの神経発達障害に関連するタンパク質が神経細胞同士を適切につなぐ仕組み	4月22日	富山新聞、北日本新聞、北陸中日新聞
	富山大学薬学部附属薬用植物園春季一般公開を開催	5月7日	富山新聞、北陸中日新聞
	富山大学附属病院が、北陸地区で初めて、経カテーテルの大動脈弁置換術(TAVI)実施施設として、平成27年5月1日に承認された。5月14日、第1症例目を実施し、成功	5月15日	富山新聞、北日本新聞、北陸中日新聞
	平成27年度国際癌治療増進研究協会国際研究奨励賞を受賞	6月1日	北日本新聞、富山新聞
	富山大学附属病院第三内科ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～開催のお知らせ	6月3日	富山新聞
	脳内蛋白質リン酸化反応の可視化に世界で初めて成功	6月5日	富山新聞、北日本新聞
	公開講演会 「認知症を学ぶ レビー小体型認知症とは」の開催について	6月26日	
	がん悪性化・進展に関与する細胞運動能を制御する仕組みを発見	7月7日	富山新聞、北日本新聞
	任期満了に伴う富山大学次期薬学部長を選出	7月29日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞
	富山大学薬学部附属薬用植物園秋季一般公開を開催	8月6日	北陸中日新聞
	任期満了に伴う富山大学次期医学部長を選出	9月9日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、毎日新聞
	「富山大学医学部慰霊祭」の開催について	10月6日	北日本新聞、富山新聞
	強レーザーパルスを用いた量子状態の超高速高効率操作に成功 ～フェムト秒2光子ラビ振動の実現～	11月27日	富山新聞、北日本新聞
	富山大学大学院医学薬学研究部(薬学)今中教授が日本薬学会の学術貢献賞を受賞	12月17日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞
	鱈食魚における利きの獲得過程の全体像を解明 一右利き・左利きの仕組み解明に期待一	1月28日	北日本新聞
	富山大学大学院大学院 次期医学薬学教育部長及び次期医学薬学研究部長を選出	2月9日	富山新聞、北日本新聞、北陸中日新聞、毎日新聞
	製薬、医療福祉を担う技術者を養成する「ファーマ・メディカルエンジニア(PME)養成プログラム」事業を地域社会、製薬産業界、医療福祉関連産業界に向けて発信!	3月1日	
	生薬甘草の成分が内臓脂肪の炎症・線維化を抑制する機序を解明	3月14日	北日本新聞、北陸中日新聞、富山新聞、読売新聞
	医学部医学科5年宮澤有紀選手(陸上競技部)記者会見のご案内	3月15日	北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、毎日新聞、読売新聞、朝日新聞

(出典：本学広報課調査統計資料)

③各賞の授賞状況

医学薬学研究部所属教員は、平成22年度以降、以下に示す各種の賞を多数受賞している(資料2-1-3)。

資料2-1-3 医学薬学研究部年度別各賞受賞状況

	学会賞等受賞件数
平成22年度	19件
平成23年度	23件
平成24年度	23件
平成25年度	16件
平成26年度	20件
平成27年度	25件

(出典：医学薬学研究部調査統計資料)

	受賞者	受賞名
H22年度	薄井 勲	日本糖尿病学会 学会賞「リリー賞」
	川口 善治	International Society of the Study of the Lumbar Spine, Best presentation award (共著)
	近藤 隆	日本超音波医学会第9回松尾賞及び菊池賞
	古澤 之裕	日本超音波医学会第11回奨励賞
	川口 善治	AOSpine excellence in Education Award
	カンワル・エヘメド	国際癌治療増感研究協会 (IASCT) 第11回国際研究奨励賞
	井ノ口 馨	第12回時實利彦記念賞
	奥村知之	12th World Congress of the International Society for Disease of the Esophagus Scientific Abstract Award 受賞
	趙 慶利	第5回アジアハイパーサーミア腫瘍学会ポスター賞
	古澤 之裕	第4回リバネス研究費東レ賞
	関根 道和	Journal of Epidemiology 誌 Best Associate Editor 賞
	吉久 陽子	第5回リバネス費「ニッピ賞」奨励賞
	遠藤 俊郎	第58回富山新聞文化賞
	井上将彦・阿部 肇	平成22年度有機合成化学北陸セミナー 優秀口頭発表賞
	井上 将彦	平成22年度有機合成化学北陸セミナー 優秀ポスター発表賞
	藤 秀人	臨床薬理研究振興財団 研究大賞
	藤 秀人	医療薬学フォーラム2010/ 第18回クリニカルファーマシーシンポジウム 優秀ポスター賞
	佐々木 淳	3rd international congress on neuropathic pain, Athens, Greece ベストポスター賞
	和田 努	The 3rd International Aldosterone Forum in Japan 優秀賞
	H23年度	牧野 輝彦
高橋 努		平成22年度日本統合失調症学会学術賞 最優秀賞
清水 忠道		第5回加齢皮膚医学会研究基金：ロート賞
マリアム・アリ・ハッサン		国際癌治療増感研究協会 (IASCT) 第12回国際研究奨励賞
安藤 孝将		小林六造記念ヘリコバクター賞
Mohammad Shehata		AND ポスター賞 第6回 ICNBD 国際カンファレンス (Association for the Study of Neurons and Diseases (AND) 年会)

富山大学医学薬学研究部 分析項目Ⅱ

	中田 直克	第 49 回日本癌治療学会学術集会 優秀演題賞 (示説)
	岡部 美恵	日本小児アレルギー学会優秀論文賞
	松下 功	日本臨床リウマチ優秀論文賞
	仁井見 英樹	臨床病理雑誌優秀論文賞
	森山 亮仁	第 22 回日本消化器癌発生学会総会 一般演題優秀賞
	北島 勲	臨床検査医学研究振興基金「小酒井望」賞
	塚田 一博	第 59 回富山新聞文化賞
	石川 充	Presentation Award in the 6th International Conference of Neurons and Brain Disease
	井上将彦・阿部 肇	平成 2 3 年度有機合成化学北陸セミナー プレゼンテーション賞
	井上 将彦	日本化学会第 9 2 春季年会学生講演賞
	藤本 和久	第 28 回とやま賞
	細谷 健一	2011 Top Reviewer in Journal of Pharmaceutical Sciences
	宮本 嘉明	Young Investigator Fellowship Award. 2nd Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology (Seoul, Korea)
	久保 義行	2011 Top Reviewer in Journal of Pharmaceutical Sciences
	久保 義行	DMPK Editors' Award for the Most Excellent Article in 2010, 1st place
	和田 努	The 4th International Aldosterone Forum in Japan 優秀賞
	和田 努	第 12 回 Pharmaco-Hematology Symposium 優秀発表賞
H24 年度	瀧川 章子	第 8 5 回日本内分泌学会学術総会 若手研究奨励賞
	瀧川 章子	第 5 5 回日本糖尿病学会年次学術集会 若手研究奨励賞
	長井 良憲	第 2 9 回とやま賞
	井ノ口 馨	AND Investigator Award 第 7 回 ICNBD 国際カンファレンス (Association for the Study of Neurons and Diseases (AND) 年会)
	三原 美晴	第 68 回日本弱視斜視学会総会 国内学会若手支援プログラム賞受賞
	柴田 千恵	第 68 回日本弱視斜視学会総会 学会賞受賞
	野上 達也	第 63 回日本東洋医学会学術総会会頭賞
	池田 英二	日本うつ病学会 第 7 回学会奨励賞
	村口 篤	(独) 日本学術振興会平成 2 3 年度特別研究員等審査会専門委員 (書面担当) 表彰
	嶋田 豊	和漢医薬学会学会賞
	近藤 隆	第 1 1 回国際ハイパーサーミア腫瘍学会 (ICHO) アジアハイパーサーミア腫瘍学会 (ASHO) 賞
	堀 岳史	第 1 1 回国際ハイパーサーミア腫瘍学会 (ICHO), 日本ハイパーサーミア学会第 2 9 回大会合同大会 優秀論文賞
	関口 敬文	日本臨床検査自動化学会茂手木優秀演題賞
	奥村 知之	第 11 回日本消化器外科学会大会 ポスター優秀演題賞受賞
	関根 道和	Public Administration and Management Session, Best in Session Award
	廣野 恵一	第 38 回日本心臓財団研究奨励賞
	神原 健太	第 86 回日本薬理学会年会 年会優秀発表賞
	井上 将彦	VCH Hot Paper Selection
	井上将彦・阿部 肇	Symposium on Molecular Chirality ASIA 2012 Poster Award
	井上将彦・阿部 肇	第 2 3 回基礎有機化学討論会 ポスター賞
井上将彦・阿部 肇	平成 2 4 年度有機合成化学北陸セミナー プレゼンテーション賞	
井上将彦・阿部 肇	日本薬学会北陸支部第 1 2 4 回例会 学生優秀発表賞	
安東 嗣修	日本機械学会 北陸信越支部第 50 期総会・講演会 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	
H25 年度	井ノ口 馨	文部科学大臣表彰科学技術賞 (研究分門)
	仁井見 英樹	Award for outstanding achievement and presentation of 9th International Conference of Clinical Laboratory Automation and Robotics.
	佐々木 利佳	日本麻酔科学会第 6 0 回学術集会 最優秀演題賞
	野上 達也	第 64 回日本東洋医学会学術総会会頭賞
	須永 恭子	第 54 回日本社会医学会総会奨励賞
道券 夕紀子	日本褥瘡学会 大塚賞 (論文) 後期高齢者のための在宅栄養スクリーニング表 Home Nutritional Screening Test (HN-test) の作成	

富山大学医学薬学研究部 分析項目Ⅱ

	渡り 英俊	第30回和漢医薬学会優秀発表賞
	森山 亮仁	第21回日本消化器関連学会週間 ポスター優秀演題賞
	小野 武年	2013年度食創会安藤百福賞大賞
	木戸 幹雄	第9回日本統合失調症学会 一般演題賞 奨励賞
	畑中 保丸	日本薬学会 薬学会賞
	倉石 泰	日本薬学会 学術貢献賞
	井上将彦・阿部 肇	平成25年度有機合成化学北陸セミナー 学生優秀発表賞
	藤 秀人	日本時間生物学会 奨励賞
	安東 嗣修	第24回日本薬理学会北部会, 旭川 優秀発表賞
和田 努	第30回とやま賞	
H26年度	バラス・ジャバイド	第17回フリーラジカル国際会議 優秀発表賞
	マティ・オル・ラハマン	第17回フリーラジカル国際会議 優秀発表賞
	市田 蒔子	日本女医会吉岡弥生賞
	川淵 奈三栄	日本プライマリ・ケア連合学会誌 平成25年度優秀論文賞
	小澤 龍彦	第31回とやま賞
	三浦 慶昭	第20回日本遺伝子治療学会総会 第5回遺伝子治療研究奨励賞
	吉久 陽子	第39回東海皮膚科漢方研究会「安江賞」
	松下 功	日本股関節学会大正富山 Award 最優秀論文賞
	近藤 隆	日本放射線影響学会第57回大会 日本放射線影響学会学会賞
	高橋 努	統合失調症研究会 第9回研究助成 最優秀賞
	白木 公康	第62回 富山新聞文化賞
	崔 正国	平成26年度(第29回) 日本衛生学会奨励賞
	笹林 大樹	第10回日本統合失調症学会 一般演題賞 優秀賞
	久保 義行	日本薬学会北陸支部会学術奨励賞
	井上 将彦	平成26年度有機合成化学北陸セミナー 優秀講演賞
	櫻井 宏明	第一回田村四郎科学賞
	藤井 拓人	入澤宏・彩記念若手研究奨励賞(日本生理学会)
	辻 泰弘	第24回日本医療薬学会年会 優秀演題発表賞
	藤 秀人	第25回臨床薬理研究振興財団賞学術奨励賞
	宇野 恭介	JSNP Excellent Presentation Award for CINP2014
H27年度	柏崎 大奈	第87回日本脳神経外科学会中部支部学術集会 優秀論文賞
	藤本 誠	JMF Top 10 Most Accessed Articles for 2014
	川口 善治	第88回日本整形外科学術集会 優秀演題賞
	齋藤 滋	14th International Symposium for Immunology of Reproduction (Bulgaria)にて“Kiril Bratanov”賞を受賞
	高橋 努	第32回とやま賞
	マティ・オル・ラハマン	平成27年度国際癌治療増感研究協会 国際研究奨励賞
	中島 彰俊	Travel award (アメリカ生殖免疫学会, 学術講演会, カナダ, キングストン)
	長田 拓哉	日本乳癌学会 Breast Cancer 賞
	藤田 和也	「若手支援プログラム演題受賞」 第71回日本弱視斜視学会総会
	高崎 麻美	日本心不全学会第1回日本心筋症研究会 Young Investigator's Award
	廣野 恵一	Miyata Foundation Award 日本小児循環器学会研究奨励賞
	廣野 恵一	日本小児循環器学会2015年 Case Report Award
	高原 照美	第47回日本臨床分子形態学会総会 (H27, 9, 18-19, 長崎) 最優秀演題賞 受賞
	山本 修輔	第88回日本脳神経外科学会中部支部学術集会 優秀論文賞
	渡り 英俊	日本東洋医学会北陸支部奨励賞
	近藤 隆	日本ソノケミストリー学会論文賞
齋藤 滋	Doctor Honoris Causa of Semmelweis University センメルヴェイズ大学 名誉博士号	

中村 友子	「Best Poster Award」 IOIS：国際眼炎症学会
松下 功	日本臨床リウマチ優秀論文賞
福地 守	公益社団法人日本生化学会北陸支部第19回支部奨励賞
井上将彦・阿部 肇	VCH Hot Paper Selection
今中 常雄	日本薬学会 学術貢献賞
安東嗣修・歌 大介	日本薬学会北陸支部第127回例会学生優秀発表賞
藤井 拓人	8th FAOPS Young Scientist Award
清水 貴浩	日本生理学会 細胞と分子生理/上皮膜研究グループ 最優秀論文賞

(出典：医薬系総務課調査統計資料)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

医学薬学研究部では、研究業績説明書に代表される優れた業績が上がっている。これら以外にも、IF  $\geq 5$  のハイインパクト雑誌（原著論文誌おおよそ上位5%以内）に、第2期中期目標期間中に 254 報（内症例報告で5報）が掲載されており、一人当たり1報以上発表していることになり、質の高い研究成果を多数発信している。また国際共同研究も活発であり、第1期中期目標期間中と比して大幅に増加している。そしてこれらの成果に基づき、時實利彦記念賞（1名）、和漢医薬学会賞（1名）、食創会安藤百福賞大賞（1名）、文部科学大臣表彰科学技術賞（研究分門）（1名）、日本薬学会薬学会賞（1名）、日本薬学会学術貢献賞（2名）、とやま賞（5名）等の著名な賞を受賞している。受賞状況に関しても、第1期中期目標期間より大幅に増加している。

以上のことから、医学薬学研究部の研究目的に照らして、関係者の期待に応える成果があがっており、期待される水準にあると判断する。

#### ④富山大学における医学薬学研究部の研究レベルの位置付け

医学薬学研究部の研究分野のレベルは、客観的データから示される。THOMSON REUTERS社のデータベースにあるESI22分野の210サブジェクトカテゴリーで、2007年から2011年における富山大学が被引用数上位にあるカテゴリーとして、「Anatomy & Morphology（国内全大学中12位）」「Chemistry, Medicinal（同6位）」「Integrative & Complementary Medicine（同1位）」「Pharmacology & Pharmacy（同6位）」「Mining & Mineral Processing（同14位）」の5つがある。このうち、「Mining & Mineral Processing（同14位）」を除いた4カテゴリーは、すべて医学薬学研究部に関わる分野である。したがって富山大学においては、医学薬学研究部の研究が全国的なレベルであると客観的に示されている。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

(高い水準を維持している、もしくは向上があったと判断する取組)

##### ① 事例1「原著論文に関して」

第2期中期目標期間中に、原著論文を一人当たり約13.8報、年間平均2.2報発表しており、第1期中期目標期間中とほぼ同じ高い水準を維持している。(資料1-1-1)。

##### ② 事例2「学会発表・症例報告に関して」

国際学会と国内学会でも、それぞれ一人当たり年間平均1.5と7.2回発表しており、第1期中期目標期間中と比べて向上している。また症例報告も増加している(資料1-1-1)。

##### ③ 事例3「外部資金に関して」

科学研究費補助金は、第1期中期目標期間中と比較して申請率はほぼ同じ水準、採択率は大幅に向上している。共同研究、受託研究、寄附金に関しては大幅に獲得額が向上している(資料1-1-3, 1-1-4)。

以上のことから、研究活動の状況は、高い水準を維持している、もしくは向上があったと判断する。

#### (2) 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

(高い水準を維持していると判断する取組)

##### ① 事例1「研究の高度化・先端化を図る研究に関して」

医学薬学研究部では、研究業績説明書に代表される優れた業績が上がっている。これら以外にも、 $IF \geq 5$ のハイインパクト雑誌(原著論文誌おおよそ上位5%以内)に、第2期中期目標期間中に254報(内症例報告で5報)が掲載されており、一人当たり1報以上発表していることになり、質の高い研究成果を多数発信している。

##### ② 事例2「国際社会への発信に関して」

医学薬学研究部所属教員は、第2期中期目標期間中に、121件の国際共同研究を海外の大学や研究機関等と行っている(資料2-1-1)。

③ 事例3「国内・地域社会への発信」

国内・地域社会へも研究成果などを積極的に発信している（資料2-1-2）。また、医学薬学研究部と富山化学との共同で開発されたファビピラビルは、インフルエンザのみならずエボラ出血熱対策にも可能性が有る薬剤として、世界的に評価された。

④ 事例4「各賞の受賞状況」

著名な賞としては、時實利彦記念賞（1名）、和漢医薬学会賞（1名）、食創会安藤百福賞大賞（1名）、文部科学大臣表彰科学技術賞（研究分門）（1名）、日本薬学会薬学会賞（1名）、日本薬学会学術貢献賞（2名）、とやま賞（5名）を受賞している。それ以外にも各種賞の受賞、ならびに論文や学会に関わる多くの賞を受賞している（資料2-1-3）。

以上のことから、研究成果は高い水準を維持していると判断する。